河川空間のサイクリング活用における課題に関する検討

Investigation into Issues in Cycling Utilization of River Space

水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 **井上 浩充**
水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 **阿部 充**
水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 **黒木 健二**
水循環・まちづくり・防災グループ 次 長 **風間 聡**
水循環・まちづくり・防災グループ グループ長 **清水 晃**

１．はじめに

河川空間は、都市部の貴重な公共空間であり、沢山の人々にとって散策やスポーツの場として利用されている。最近では、健康増進やサイクルスポーツの競技人口増、ポタリング、観光シェアサイクルなど、河川やその周辺における自転車利用のニーズが高まっている。

本研究では、河川空間のサイクリング活用に着目し、課題の整理及び解決に向けた方策について検討した。

２．サイクリング活用の促進に向けた検討

２－１ 利用者と管理運営者の課題

八町ら（2022）は、サイクリング愛好者へのアンケート及び 2 箇所（北海道美瑛市：美瑛川、茨城県常総市：鬼怒川）の現地調査の結果を踏まえ、利用者と管理運営者の課題を取りまとめている。表－1 は、それらの課題を「安全性」「利便施設」「地域振興」「維持管理」「サイクリングコースの情報発信」の観点ごとに再編集したものである。

表－１ 利用者と管理運営者の課題

項目	課題
①安全性	・様々な利用者が交錯し危険であるため、利用マナー・ルールづくり等による安全対策が必要（利用者・管理者） ・車止めの幅が狭くて危ない（利用者）
②利便施設	・休憩施設（トイレなど）が不十分（利用者） ・自動販売機など購入できる施設が不十分（利用者） ・サイクルスタンドや工具セット等の充実、トイレを整備することの困難さが課題（管理者）
③地域振興	・まち側の周辺観光と連携することによる付加価値の創出（管理者） ・まち側施設の利用（飲食、物販等）（管理者）
④維持管理	・整備状況（路面、沿道の草）などが悪い（利用者） ・将来の維持補修や改築時の予算確保（管理者）
⑤サイクリングコースの情報発信	・情報（ルート、最新の工事状況）が入手しにくい（利用者） ・サイクリングロード内の道が分かりにくい（利用者） ・一般道からのアクセスが分かりにくい（利用者） ・サイクリングロードの周知による効果的・効率的な情報発信（管理者）

２－２ 現地調査

（１）現地調査概要

前述の課題に対して、解決に向けた方策の検討を行うため、2 箇所（神奈川県川崎市、茨城県土浦市）の現地調査を実施した。川崎市には市内多摩川の下流側にある「多摩川青少年サイクリングコース」と上流側の「多摩川サイクリングコース」が設定されている。一部未連続区間があるが、2 地区を合わせて「かわさき多摩川ふれあいロード」と称して市民に親しまれている。土浦市は、ナショナルサイクルルートである「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の主要な出発点として位置づけられている。その地理的利点を活かし、サイクリスト向けの施設を駅周辺に整備し、サイクルツーリズムの振興に力を注いでいる。

両地区の現地を確認するとともに、自治体及び河川管理者に対し、取組み内容やサイクリングコースを整備する上での留意点・工夫点についてヒアリングを行った。

表－２ 現地調査箇所

自治体	コース名	河川名
神奈川県 川崎市	かわさき多摩川 ふれあいロード	多摩川
茨城県 土浦市	つくば霞ヶ浦 りんりんロード	桜川、霞ヶ浦

（２）現地調査結果

現地調査で得た両地区の取組みを２－１の課題の分類ごとに整理した（表－３）。

表－３　現地調査結果（課題分類ごとの取組み内容）

項目	課題	取組内容
①安全性	・様々な利用者が交錯し危険であるため、利用マナー・ルールづくり等による安全対策が必要（利用者・管理者） ・車止めの幅が狭くて危ない（利用者）	・マナー・ルールや注意喚起の案内を設置（川崎市） ・人通りの多いところにスピード抑制のためのハンプやイメージハンプを設置（川崎市） ・堤内から河川敷への横断用階段箇所等に舗装着色による注意喚起（川崎市） ・拡幅できない箇所は、利用方法や注意喚起等を行う（川崎市） ・マナーアップキャンペーンを1～3回/年行っている（川崎市） ・車止めの設置間隔については、最近は互い違いに設置を改めるなど、ゆるくして対応している（土浦市）
②利便施設	・休憩施設（トイレなど）が不十分（利用者） ・自動販売機など購入できる施設が不十分（利用者） ・サイクルスタンドや工具セット等の充実、トイレを整備することの困難さが課題（管理者）	・サイクリストには、すでに設置済のトイレ、四阿を利用してもらっている（川崎市） ・サイクリングロード沿いに駐車場、トイレ、休憩所、自動販売機、シャワー等を完備した拠点施設を整備（土浦市） ・市としては、既存の施設を休憩施設に活用しているが、サイクリングロード全体では、道路脇に休憩施設を整備している箇所がある（土浦市）
③地域振興	・まち側の周辺観光と連携することによる付加価値の創出（管理者） ・まち側施設の利用（飲食、物販等）（管理者）	・ナショナルサイクルルートでは、コース案内、周辺施設への誘導、注意喚起等の標識や路面標示を行っている（土浦市）
④維持管理	・整備状況（路面、沿道の草）などが悪い（利用者） ・将来の維持補修や改築時の予算確保（管理者）	・草刈り等の維持管理時の路肩損傷軽減のため、最近は路肩に縁石を設置（川崎市） ・利用の多い箇所等は、市が頻度を上げて除草を実施している（川崎市） ・市と国で除草のタイミングを合わせている（川崎市） ・路肩は法面の際までは砕石や芝等で処理している（土浦市）
⑤サイクリングコースの情報発信	・情報（ルート、最新の工事状況）が入手しにくい（利用者） ・サイクリングロード内の道が分かりにくい（利用者） ・一般道からのアクセスが分かりにくい（利用者） ・サイクリングロードの周知による効果的・効率的な情報発信（管理者）	・トイレは堤防天端から確認できるため、案内標示等は行っていないが、コース案内看板には位置を表記（川崎市） ・サイクリングに役立つ情報が掲載されたサイクリングポータルサイトの運営（土浦市）

２－３　課題解決に向けた取組み・留意点の検討

調査結果から、各分類ごとの課題解決にむけて有効と考えられる取組み・留意点についてとりまとめた。

（１）安全性

特に都市部の河川では歩行者も多く、安全性を課題とする地域は多い。マナー・ルールの設定や啓蒙といったソフト面とハンプや舗装の着色といったハード面を組み合わせた対策が現実的である。対策にあたり特に歩行利用が多い箇所で重点的に行うなど、メリハリを効かせた対応が有効である。なお、複数の自治体が接するような河川では、各自治体で通行方向などのルールが異なりサイクリング利用者の混乱を招く場合がある。協議会等を設置するなどして、関係自治体でルール・マナーなどの調整を行うことが有効である。

写真－１　舗装の着色による注意喚起（川崎市）

（２）利便施設

サイクリストにとって、トイレや日陰などの休憩施設や水分補給ができる自動販売機などのニーズが高いが、河川では不十分であることが課題として挙げられている。既存の四阿やトイレなどの施設を休憩施設に活用するところが多いと考えられるが、土浦市では、トイレや休憩以外にシャワーや無料 Wi-Fi、自動販売機（ドリンク＆修理工具）など充実した拠点の整備を行い利用者の好評を得ており、参考になる。

写真－２　トイレ、シャワー等を完備した拠点施設（土浦市）

（３）地域振興

河川におけるサイクリング利用者がまち側への回遊や消費行動に結びつかず課題としている地域は多い。案内設置によるまち側への誘導などが対策として取り組まれているが、サイクリストは走行自体を目的としている場合が多く、効果は限定的と考えられる。地域の観光資源や、宿泊やお土産などの消費する場所との連携、サイクリストを受け入れる地域の土壌づくりなど総合的な取組みが必要である。

（４）維持管理

維持管理は安全で快適なサイクリング利用を保障するため必要不可欠であるが、特に除草についての費用負担が課題となりサイクリングコースを断念する自治体もある。調査個所では、路肩の縁石設置や砕石等による処理など繁茂を抑制する工夫を行っ

ていた。また、地域や民間事業者の維持管理活動への参加を促したり、河川空間のオープン化による収益を維持管理費に充てることも考えられる。

（５）サイクリングコースの情報発信

情報発信はその利用促進と観光資源としての価値向上に欠かせない取組みである一方、サイクリングコースのコースやアクセス、工事情報などが分かりにくいという課題が指摘されている。土浦市では、サイクリングに役立つ情報が掲載されたスマートフォン専用のサイクリングポータルサイト「ちゃりさんぽ」の運営を行っており、これらの取組みにより情報発信とアクセスの問題解決に努めている。

３．おわりに

河川空間のサイクリング活用については、サイクリストの増加に伴い、河川沿いのサイクリングコースの環境整備が進展を見せている地域も増えているが、課題のある地域や支援が必要な地域もある。今回整理した知見をブラッシュアップし、留意点や取組みのポイント、先進事例などを手引きとして取りまとめることで、河川のサイクリング活用に取り組む地域の参考となることが期待される。今後その手引き作成を進め、多くの主体間・地域間で共有・活用し、より一層の知見の充実を図っていく予定である。

＜参考文献＞

1) 八町裕浩ら : 河川区域のサイクリングロード利活用促進に関する一考察，リバーフロント研究所報告，第 33 号，2022